

特別展

三井記念美術館 茶の湯の名品展について

(平成21年10月4日[日]～11月15日[日])

林原美術館 館長 熊倉 功夫

三井家は江戸時代を代表する有数の豪商です。井原西鶴がその小説の中で取りあげたように才氣あふれる「現金、掛け値なし」の新しい商売を開拓し、呉服商からたちまち両替商へ拡大。大名貸しで大資産を築きます。

当時の商人たちは大名とも御家人とも、あるいは同業者とも多彩な交際をする上で、遊芸を必要としました。遊芸とは専門の師匠について学ぶ芸道のことです。謡や音曲はもちろん、和歌、俳諧など多岐に分かれますが、なかでも寄合いの芸能ともいいうべき茶の湯は必須の教養でした。三井家も表千家の宗匠について茶の湯を学びます。

茶の湯の道具は室町時代以来、諸道具のなかで最高の評価を受けてきました。当然、最も高価な茶道具は、その時代に一番の経済力をもつ人々の所へ集まります。それが江戸時代であれば両

替商、なかんずく三井家や鴻池家です。こうして三井家の茶道具を名品収集の基礎ができました。

三井家の収集は近代に至ってさらに加速します。強大な三井財閥を背景にユニークな数寄者が三井家に輩出し、そのコレク

ションの質を一段と高めました。今回、その中核となる茶道具を皆様に鑑賞いただくことができました。あらためて三井記念美術館のご好意に厚く御礼申し上げます。



国宝 志野茶碗 銘卯花増(三井記念美術館蔵)

特別企画展

特別企画展「池田光政」

(平成21年11月22日〔日〕～22年1月31日〔日〕)

特別展



池田光政画像(「繩武像」のうち)

儒式による和意谷墓所の造営、藩学校および閑谷学校の創設などをおこない、藩士や領民の教育を重視した名君として知られています。その遺品からは、儒学を修めただけでなく、経典の写経なども行い、あわせて和歌集や古典なども広く学んだ教養豊かな人物だったことがわかります。光政生誕四百年を記念し、光政自筆の史料や所用の品々を展示し、名君光政の事績を振り返ります。

となり、寛文十二年（一六七二）までの四十年間に渡り藩政を運営しました。光政は新田の開発、東昭宮の勧請



池田光政日記

特別展「平成の玉虫厨子と蒔絵」

(平成22年2月7日〔日〕～3月28日〔日〕)



「平成の玉虫厨子」
(茶の湯の森美術館蔵)

A square Japanese lacquer box (inrō) with a light yellow or cream-colored ground, decorated with dark green ivy leaves and small red flowers. The box is supported by four ornate, gold-colored feet.

玉虫の工芸品「将棋盤 玉虫桐の図」
(茶の湯の森美術館蔵)

な足跡を残し、その技術を現在に伝えていきます。平成十六年に、法隆寺の玉虫厨子を再現すべく、飛騨高山の匠たちが中心となつて「玉虫厨子復元プロジェクト」を立ち上げました。玉虫厨子は飛鳥時代の七世紀に制作された仏像などを安置する厨子で、伝世品として最古の漆工芸品です。復元制作

さらに玉虫を用いて様々な工芸品も制作しました。玉虫の工芸作品は他にない大変珍しいものと言えます。本展では平成の時代の技法を駆使した玉虫厨子と、不思議な光を放つ玉虫の工芸品をご鑑賞いただきたく存じます。また、その他に林原美術館所蔵の時絵の数々を合わせて展覧し、御覧いた

にあたっては、厨子の設計にまつわる古文書などは残されておらず、困難を極め、試行錯誤を繰り返して進められました。貴重な玉虫を集め、ようやく厨子を現代によみがえらせることができ、見事な姿となつて私たちの前に現れました。さうこそ玉虫を用いて、様々な工芸品

本展覧会では、国宝
玉虫厨子の復元作品
と、玉虫を用いた工芸
品をご紹介します。飛
騨高山は古くから木
匠の里として知られ、
日本の木工文化史に

「平成の玉虫厨子」
(茶の湯の森美術館蔵)

イベントに参加しての感想

本年度も様々なイベントを企画し、皆様にご参加いただいています。上半期のイベントに参加いただきました皆様から、様々な感想をご寄稿いただきました。これからも楽しい企画を計画中です。

【桜見の会】に参加して



今年のお花見はちょうど満開に当るかなと、心待ちして良くなつた四月二日、時期で、恒例の野点と館長熊倉功夫先生の講話の「桜見の会」に参加しました。うららかな春の日射しの下で、数田宗枝先生とその社中によるお手前のお茶と「みずゑ」の花見だんごを頂き、和歌懐紙、素晴らしいお道具を拝見し、春の心も落ちつい

ました。またこのようないましに、是非参加させて顶きたいと思いま

若葉の美しい五月、熊倉功夫館長先生のご案内で、毎年人気の京都茶室見学で待庵に行かせて頂きました。ブラックホールのように吸い込まれそうな室床。細い竹の桟が用いられた障子。わずか二畳という空間に光と影が演出されていました。細部に渡り計算された美意識に、利休の侘びの極みが表現されており、数ある茶室の中でも待庵が特別な存在であるという事を強く感じました。その後に巡った孤蓬庵、聚光院の茶室もとても素晴らしい、何より熊倉先生のご説明を伺ながら訪

土岐隆信

た次第です。そして、点心は「はむら」のお花見にぴったりの美しく彩られたお弁当を美味しく頂きました。熊倉先生の講話は、先生が長年研究され、この度出版された「南方録」についてのお話でした。これに書かれている紹鷗のわび茶の心は定家の歌の心、宗易は家隆の歌についてわび茶の心を見つけていたというお話を分かりやすくしてくださいました。展示も開館四十五周年記念の企画展「春爛漫・江戸の絵ごころ」と素晴らしい春のひとときを今年も持つことができました。来年も楽しみにしています。

重田直子



れたのは、夢のような時間でした。またこのようないましに、是非参加させて顶きたいと思いま

【ワークショップ 子供から大人まで楽しめる】陶芸教室に参加して

小学五年生 中原一也

ぼくは、七月二十五日に林原美術館の備前しの焼の陶芸教室に参加しました。配られた土を分けて、お茶わんを二つ作ることにしました。一つ目は、先生に手伝ってもらつてきれいな形をしたお茶わんができました。二つ目は、できるだけ自分で、先生のようなお茶わんを作るぞと思いました。いざ、自分で作ってみると、でこぼこがあつたり、中心がずれてたり、あつみがない部分があつたり。そして、少しつぶれた形のお茶わんができる

【原典で聴く平家物語の夕べ】

藤本桜子

秋の夕べ、栄枯盛衰・諸行無常を伝える平家物語の世界の四つの章段を、琵琶の弾き語りにより楽しむことが出来た。絵巻が展示された館内にしつらえられた舞台に、百名強の人人が集い、それは始まった。静まりかえった中、大きな撥で搔き鳴らす薩摩琵琶の音に、坂田美子さんの歌が「祇園精舎の鐘の声」と嫋嫋と時には力強く美しい日本語の響きを伝える。また、表現に大きな拍手が起ころ。語りまししたら、是非参加させて頂きたいと思いま

す。に敦盛になりきつての熱演。切々とした歌に知章が、知盛が、人間が人間らしく生きた時代。親子の情。



言の葉を声にして、胸を打たれる。壇ノ浦の章、琵琶の音も高鳴り、潮の流れが速い。語り演じ、知盛の入水にて終演。「まさに時代をつなぐ平安のライブ!!」、目を瞑り、言の葉を聞くことに集中したひととき。素晴らしい夕べに感謝。

琵琶の音に武者よみがえる秋夕

桜子



今年度後半のイベント

特別講演会

❖ 特別展「三井記念美術館 茶の湯の名品
—利休の道具と国宝志野茶碗卯花壇—」
記念講演

日 時 平成21年10月10日(土) 13時30分～15時
演題 「千利休の茶の湯道具」
講師 林原美術館館長 熊倉功夫
会場 岡山県立図書館 2階 多目的ホール
参加費 友の会会員1,000円 一般1,200円
定員 100名(要予約)※定員に達しました。

❖ 特別展「三井記念美術館 茶の湯の名品
—利休の道具と国宝志野茶碗卯花壇—」
記念講演

日 時 平成21年10月31日(土) 13時30分～15時
演題 「三井家の茶道具」
講師 三井記念美術館 学芸課長 清水実氏
会場 岡山県立図書館 2階 デジタル情報シアター
参加費 友の会会員1,000円 一般1,200円
定員 80名(要予約)

❖ 特別企画展「池田光政」記念講演

日 時 平成21年12月12日(土) 13時30分～15時
演題 「池田光政における『家』」
講師 岡山大学文学部教授 倉地克直氏
会場 三光荘 3階 パブリゾン2・3室
参加費 友の会会員1,000円 一般1,200円
定員 80名(要予約)

お月見と音楽鑑賞

今年は、くらしき作陽大学の生徒さんが琴で純邦樂の演奏を行い、熊倉館長のトークをお楽しみいただきます。展覧中の「三井記念美術館 茶の湯の名品」の世界に心を馳せながら、心豊かなひと時をお過ごしいただければと思います。

日 時 平成21年10月3日(土)

参加費 友の会会員1,700円 一般2,000円
定員 100名(要予約)

秋のお茶会

❖ 「林原美術館竹明庵茶会」

「竹明庵」におけるお茶会も回を重ね、「林原美術館のお茶会」として定着してきました。今年も、熊倉館長が亭主を数田宗枝先生がお水屋をつとめ、2日間に亘ってお茶を楽しんでいただきます。熊倉館長のしつらいによるお茶席で馥郁と香る一服のお茶と侘び寂びの世界をご堪能ください。

日 時 平成21年11月22日(日)・23日(月・祝日)

参加費 友の会会員1,500円 一般1,800円
定員 160名(要予約)※各日80名

漆塗りの箸置き製作

❖ 「備中漆でmy箸置きを作ろう」

備中漆の復興に携わっている小野忠司氏を講師に招き、漆塗きの現場や日本の漆の現状等のお話を交えながら、my箸置き作りを通して備中漆復興への理解を深めていただきます。箸置きの削りや彫りの作業は参加者が行い、実際の漆塗り作業は、小野氏にしていただきます。小野氏から備中漆塗りのお箸がプレゼントされます。お楽しみに！

日 時 平成22年2月20日(土)

参加費 2,000円
講師 小野忠司氏
会場 林原美術館ロビー
定員 20名(要予約)

「友の会」募集のご案内

当館では今年度後半も、引き続き友の会会員を募集しています(有効期限は平成22年3月31日まで)。

入会いただきますと、当館が主催する各展覧会の入場料が企画展は無料 特別展は割引(会員並びに同伴者一名)となるほか、展覧会やイベント情報、「林原美術館NEWS」(年2回発行)などを随時ご案内いたします。「」入会の申し込み及び詳細は、当美術館までお問い合わせください。

会員の種類・年会費

個人会員	1年 3,000円(新規) 2,700円(入会継続) 3年 7,000円
法人会員	1年 30,000円(新規) 27,000円(入会継続) 3年 70,000円
有効期限	1年会員 入会日～平成22年3月31日
	3年会員 入会日～平成24年3月31日

記 集 後 記

本年度もあつひつ間に、下半期に突入。

上半期の催しなど
の「」感想を掲載し
ております。「」寄
稿くださいました

皆様ありがとうございました。
「」れました。これ

からもますます展覧会や
イベントを充実させてい
きます。乞う期待くだ
さいませ。(杉村・宮尾)

